

本年度の重点目標	①学ぶ姿勢と確かな学力を身につけさせ、進路希望の実現を図る。 ②部活動、生徒会活動、学校行事の一層の活性化を目指す。 ③基本的な生活習慣を確立させるとともに、規範意識の醸成を図る。 ④保護者、同窓会、中学校、地域等との連携強化を図る。		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
総務部	①無駄をなくす ②仕事の効率化 ③PTAとの連携強化	①仕事内容を精選する。 ②PDCAサイクルを活用。 ③PTAに活動の理解を得られるようにする。	①年度当初に総務部業務マニュアルを作成し、各担当の内容を洗い出した。業務改善のためマニュアルをどう活用するのかが今後の課題である。 ②式典などを画像で記録・確認することで、入学式・卒業式などの準備を計画的に準備している。今後滞りなく実施していきたい。 ③昨年よりも早くPTA委員と連絡を取ることができた。
教務部	教務関係文書の見直し	①教務関係文書を見直し、効率よく作成できるよう工夫する。 ②変更点について周知する。	①定期考査についてミスが起こらないこと、効率よく実施できることを念頭にいれ検討した結果、答案の保管方法や配付方法などいくつか変更することができた。点数等の入力についてもチェックリストを作るなど分かりやすくした。来年度以降も定期考査に限らず、見直しできることは検討していきたい。 ②教科会などを通して意見を集約し、教科主任会や企画委員会を通して慎重に検討し、職員会議等で全職員に周知した。
生徒指導部	①基本的な生活習慣の確立（遅刻防止） ②身だしなみ指導の徹底 ③交通安全意識・登校マナーの向上	①8時35分に教室へ入室、5分前登校の継続指導、遅刻過多生徒への指導強化。 ②身だしなみ指導、事後指導、登校指導、交通安全指導時の校門指導を継続して実施。校外での指導機会の増加。年度当初に「生徒指導に関する確認事項」を全職員に配付し、指導内容・方法の確認。 ③交通安全指導への生徒参加、地域へのアピール。PTA合同指導時に保護者のたすき利用、自転車登録・点検時に交通安全指導の徹底。自転車通学路及び自転車の駐輪マナーの徹底。	①毎朝の登校指導とともに、各学年・各クラスの徹底された指導の甲斐もあり、遅刻指数を大幅に減少させることができた。 (遅刻指数：0.13、遅刻総数：129) ②身だしなみ事後指導の件数は、昨年に比べ減少した。また新たな課題も見つかったので、来年度に向けて対策を考えていきたい。 ③交通事故件数は昨年に比べ、ほぼ横ばいである。本校自転車通学者が年々増加している中でこの課題は大きい、解決に向けて引き続き対処していきたい。
進路指導部	自己理解と適切な職業観に基づく進路決定	①LTおよび総合的な学習の時間での進路指導と進路行事との関連性を深めるための方策を工夫する。 ②長期休業中のインターンシップを紹介する。 ③キャリア教育の計画を立案し、作成することで、学校教育全体の中に位置づける。	①ワークシートをしっかりと活用して、進路行事に向けた準備と進路実現に向けた資料作りができた。また、HRでの指導と関連性を持たせるようにした。 ②現状では希望者と受け入れ先の人数が合致しているため、問題なく実施できている。希望者が増加してきたときにどのように対応していくかを考えておく必要がある。 ③全体計画を示し、キャリア教育の意義や教育活動での具体的な位置づけを職員に確認してもらい、周知を図った。
保健厚生部	健康の自己管理能力の育成	①保健委員会を毎月開催し、「保健だより」の発行を行う。 ②保健室利用者数の調査、利用者への「生活習慣および食生活について」のアンケートを行う。 ③保護者、生徒、教職員へスクールカウンセリングの周知徹底を図る。 ④救急活動の充実を図る。	①生徒保健委員会を毎月開催し、保健指導を行い、また「保健だより」を毎月作成し、自己管理能力を高めた。 ②保健室利用者は、内科・外科ともに昨年度と同程度となった。内科は持病のある生徒の来室があったこと、外科は登下校中のけがが減少しないことが原因と考えられる。「生活習慣および食生活について」のアンケートを保健室利用者や保健委員に行い、実態把握に努め、「睡眠」に関する保健指導を行った。 ③スクールカウンセリング利用者数は、昨年度比35%増であった。スクールカウンセリングが周知されたこと、継続利用者の増加が原因と考えられる。今後も広報活動を積極的に行い、スクールカウンセリングの有効利用を図りたい。 ④運動部を中心に救急体制に関するアンケートを行い、その結果をもとに、次年度に向けて資料を作成中である。
図書情報部	ホームページの充実化と図書館の活性化	①1年生に図書オリエンテーションを行い、図書館利用の充実を図る。 ②新着図書の情報を紹介しながら、行事や時期に応じた図書の話題を提供する。 ③ホームページを充実させる。 ④プロジェクターの使用など職員に周知を図る。	①図書館だよりを通して、「魂の一冊」ということで特集を組み、またそのときの話題の新書を紹介することで、貸出数が微増した。 ②文化祭で育てたハーブガーデンのハーブを使って、生文科の授業で活用してもらった。また、芸術鑑賞会の時には多くの図書委員が活躍してくれた。 ③一部のページが更新するのが遅かったが、定期的に更新できた。 ④タブレット端末を使って授業を行う教員が増え、新しいプロジェクターも活用率が高く、有効活用できた。
生徒会部	生徒会活動のさらなる活性化	①クラス数が変則な状態での学校行事における人数編成・内容がバランスよく実施できるよう、方策を考える。 ②学校行事が安全・スムーズに運営されるよう、施設設備の老朽化や安全面での点検、改修を行う。 ③生徒会執行部・有志実行委員の育成を行い、生徒会活動の年度を超えた継続性を高める。	①あと1年、クラス数が変則な状態であるため、引き続き人数編成・内容がバランスよく実施できるよう、検討し実施していきたい。 ②次年度は体育館改修工事のため、学校行事を大幅に変更しなければならない可能性が高い。施設設備や日程も限られているため種目や内容の見直し、代替案などを早急に検討していく必要がある。 ③挨拶運動や生徒会便りの発行など、執行部生徒の提案による活動を継続して実施することができた。次年度も生徒が主体的に活動を進めていけるよう、指導助言していきたい。
生活文化科	①個に応じた指導の充実を図り、知識と技術を定着 ②生活文化科の学校行事や学校家庭クラブ活性化	①学習環境の整備や各種検定の指導方法を工夫する。 ②学校祭や学校家庭クラブ活動の運営について充実を図る。	①第42回家庭科技術検定では、1級（被服製作の洋服、和服及び食物調理）は全員合格、2級についても高い合格率をおさめた。現在は、今後行われる情報処理検定や秘書技能検定の受験に向けて指導をしている。検定の指導方法について、来年度へ活かすため引き続きしていきたい。 ②文化祭における、ファッションショーや食物バザーについて高評価をいただいた。来年度についても、保護者や地域住民からの声を大切にして、他の行事等の充実も図りたい。今年度は新たな地域活動に参加することができた。生徒は日頃の学びを披露する場となり、評価を受けることが次の意欲にもつながるので、地域や他校との交流が続くよう計画していきたい。
第一学年	基本的な生活習慣と学習習慣の確立	①時間・規律を守り、コミュニケーションの第一歩である挨拶を気持ちよくすることができる集団を育成する。 ②授業を真剣に受けることのできる環境を整え、家庭学習の習慣を身につけさせる。 ③提出物を期限までに提出させる。 ④保護者との連絡を密にし、こまめな情報交換を心がける。	①「朝8時35分教室入室」の習慣は定着しており、交通機関の遅れや天候に関わらずきちんと時間を守るようになった。引き続き良好な状態を維持したい。 ②③学習時間調査などを通して担任が各生徒の学習習慣を確認して話合いや助言の機会を持ったり、週末課題、長期休暇課題等の課題への取組みについて学年で協力して指導を継続し、期限を守って提出できるようになった。 ④問題点が起こった時は早く報告、連絡、相談を心がけ、情報を共有し学年全体で協力して取組み解決に結びつけた。
第二学年	進路目標の設定と学習習慣の定着	①LTや総合的な学習の時間を利用し、生徒の適性に合った進路目標を設定させる。 ②各教科で課題を定期的に与えることに加え、長期休業中の課題やGW課題など時期に応じて適切な課題を与え、学習習慣の定着を図る。	①LTや総合的な学習の時間で進路情報を提供し、生徒が自身の進路をより具体的に考えて始めている。1学期、2学期の個人面談では、次年度の科目選択とも絡めて、的確に指導した。 ②各科目担当の指導もあり、提出物の状況は良い。長期休業中の課題も若干、遅れる者もいたが、数日のうちに完了している。
第三学年	「生徒の適正に応じた進路指導」の実現	①面接等を充実させ、各生徒の「進路希望・学力・その他の状況」のより正確な把握に努める。 ②進路希望実現のため、各生徒の学力を向上させる。 ③様々な情報を共有し、それが有効に活用できるよう、方法の改善を試みる。 ④(②③のためにも)学年と進路指導部や教科との連携をより密にすべく工夫を加える。	①③④1年を通して、各生徒の成績や進路希望の推移などの情報を、校内ネットワークで共有することができた。それを適切に活用することで、担任の指導はより効果的なものとなり、各時期の検討会も充実度を増したと考える。何より情報を共有することで「学年全体を考える視点」をそれぞれの教員が持ち得たことも意義深いと思われる。ただ、校外模擬試験の結果を即時に還元して教科との連携を深めるという点においては、まだ工夫の余地も多く、来年度の課題としたい。 ②冬季セミナーのあり方など、基本的には昨年度の方法を踏襲しつつ若干の改善を加えた。生徒の取り組みも概ね良好であった。補習全体の反省も踏まえ、来年度に引き継いでいきたい。
総合評価	①学習面については、実験実習や情報機器を使った授業、グループワークなど、わかりやすい授業展開を心がけた。授業以外にも週末課題、補習、夏季・冬季セミナー、土曜日学習会などの学習の機会を設け、学力の向上に努めた。 ②部活動では陸上競技部と弓道部が全国大会出場を果たし、その他にも県大会や東海大会に出場するなど好成績を取めた。 ③年間を通して身だしなみ指導や交通安全指導、登校指導等の徹底を図り、基本的な生活習慣や規範意識の醸成を図った。近年、遅刻者指数は減少傾向にあり、生徒は落ち着いた学校生活を送っている。 ④PTA専門委員会（総務・研修・生活・進路）の活動は、保護者の協力により各役割を果たすことができた。生徒会による大府特別支援学校との交流や茶華道部・チャアリーディング部・生活文化科等に所属する多くの生徒が地域の催し物に参加し連携を図った。同窓会については、本校の教育活動にご理解を頂き、多方面にわたる支援を頂いた。		